

表彰

日本油化学会功績賞

老 田 達 生 氏

(元京都工芸繊維大学教授)



老田達生先生は1976年に京都工芸繊維大学工学部色染工芸学科をご卒業になり、同大学院工学研究科式染工芸学専攻修士課程を修了後、1979年に京都大学大学院工学研究科博士後期課程合成化学専攻に入学されました。1982年3月に同課程を研究指導認定退学された後、京都大学化学研究所文部技官(教務職員)に着任されました。その間、1984年3月に工学博士(京都大学)の学位を取得され、1986年1月から1987年6月まで、米国ユール大学のH. H. Wasserman教授の下で博士研究員として研究に従事されました。1988年10月に京都工芸繊維大学工学部物質工学科に転任され、文部技官(教務職員)、助手、助教授、准教授を経て、2017年に京都工芸繊維大学分子化学系教授に昇任され、2019年に京都工芸繊維大学を定年退職されました。

京都工芸繊維大学の学部・修士学生時代は「1,3-双極子環化付加反応を中心とした有機化学反応」の研究に携わり、その後の京都大学化学研究所(博士後期課程、技官)では「ヘテロ元素の特性を用いた有機化学反応」に関する研究に取り組みました。教員として京都工芸繊維大学の出身研究室に戻られてからは、林 良之先生の下で「界面材料学」に関する研究に注力されました。老田先生は、従来の界面活性剤の延長線上にない、特異な構造を持つ界面活性剤が、予想を超える界面物性を発揮することに着目され、それまでに培った有機合成の技術を駆使して様々な新規界面活性剤の開発に取り組みされました。特に、新規 Gemini Surfactant(二鎖二親水基型界面界面活性剤)とフッ素系界面活性剤の開発と物性

評価に精力的に取り組まれ、その業績により Journal of Oleo Science (JOS) 誌の Editor's Award を受賞されています。

本会においては、油脂・合成部会の部会長(1997~1999年)、役員候補者推薦委員会委員長(2002年)、関西支部担当の理事(2005~2006年)を歴任されるとともに、JOS 誌の Editorial Board Member を19年間(2000~2018年)務められました。また、関西支部では、幹事、常任幹事、常任幹事長、監事を歴任されるとともに、2005~2017年の13年間に渡り、事務局として支部活動を支えて来られました。毎年3回開催される常任幹事会・幹事会の準備と、関西支部が主催する3大行事(フレッシュマンセミナー、関西油化学講習会、特別講演会)の参加申し込みならびに当日の受付業務等を着実に遂行されました。さらに、関西地区で開催された9回の年会で実行委員を、そのうち京都工芸繊維大学と神戸学院大学で開催された年会で総務を務められました。年会の後に開催されていたオイルカップスポーツ大会(テニス大会)にも世話人として参加され、大会を成功に導かれるとともに、高校時代に硬式テニス部で鍛えられた腕前をフルに発揮されていました。また、米国油化学会とのジョイントミーティングとして開催されたJAWC2000では実行委員を務められ、会の運営・発展にご尽力されました。

以上のように、老田達生先生の日本油化学会に対する多大なるご貢献は功績賞にふさわしいものであり、ここに推薦いたします。今後も、老田先生がご健康で一層ご活躍されることを祈念いたします。